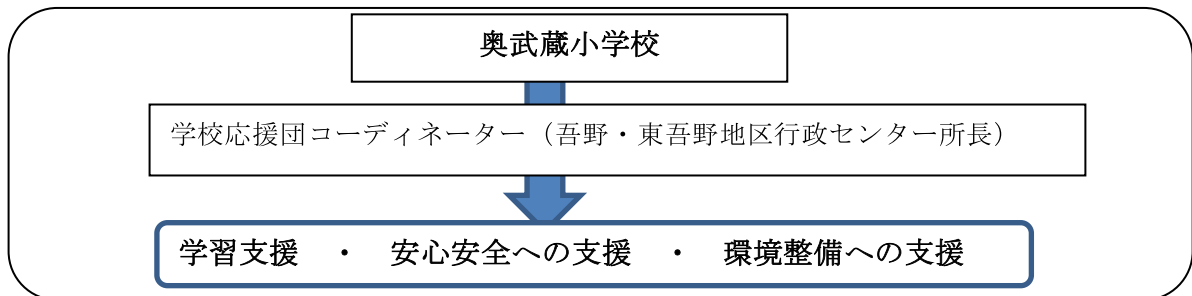


飯能市立奥武蔵小学校の実践

- 1 児童数・学級数 75名・7学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	2名
担い手	吾野地区行政センター所長・東吾野地区行政センター所長
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○地域の様々な団体・組織との連絡・調整 ○新たなボランティア参加の声かけ

4 充実・発展に向けた工夫

(1) 【組織の連携】

本校は、学校応援団と青少年健全育成の会、2つの組織が協力し合って活動している。主に学習関係・安全への支援では学校応援団が中心となり、環境整備は青少年健全育成の会が中心となって取り組んでいる。学習関係では、地域の学習の他、社会福祉協議会や「ふくしの森・東吾野」が中心となり、福祉教育に取り組んでいる。

(2) 【コーディネート工夫】

統合により学区も広がったため、地域に精通し、中心となる両吾野地区行政センターの所長を学校応援団コーディネーターに任命し、より細部まで連絡が行き届くようになるとともに、地域への声掛けやボランティアの募集など、学校の負担軽減につながった。

5 特徴的な活動内容

(1) 学習活動への支援

総合的な学習の時間での学習支援をはじめ、読み聞かせやクラブ活動等で、ゲストティーチャーを務めている。特徴的なのは、体験を中心とした福祉教育である。充実した学習とするために飯能市社会福祉協議会と連携し、教育プログラムから共同で作りを上げた。社会福祉を知識だけでなく心から考える機会として、施設の訪問や体験的活動を多く取り入れた。



【認知症サポーター学習会】

(2) 安心安全への支援

学区が広くなり、スクールバスでの登下校がほとんどである。（利用児童数63名）

そのため、下校時刻を保護者や地域にお知らせし、迎えや安全の見守りをしてもらい、さらに、地元の駐在所の警察官を中心に地域の方々も、見守り活動を行っていただいている。

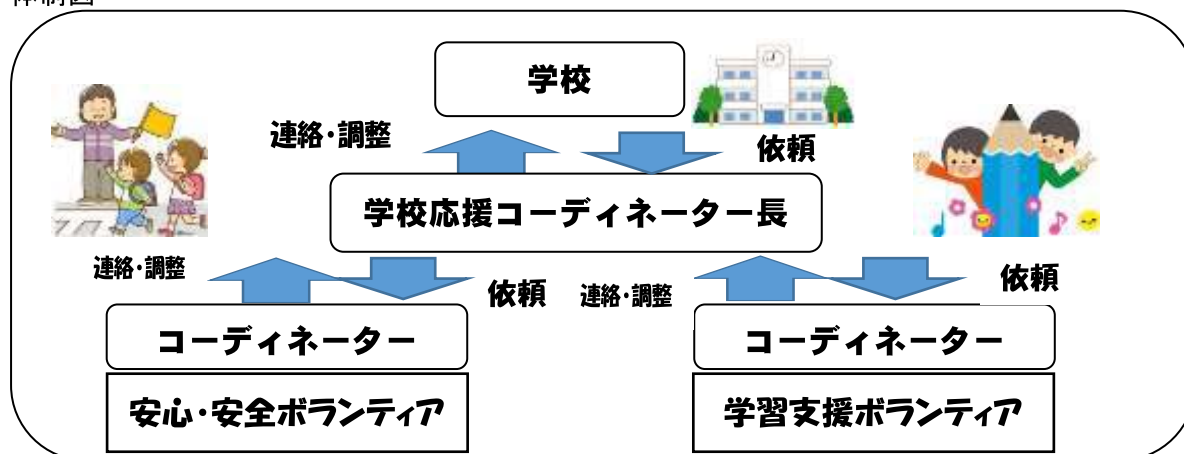
6 成果と地域の方の声

- 多様な知識や経験をもつ方の協力や支援により、学習活動をより充実したものにすることができた。特に児童が意欲をもって取り組む姿が多くみられ、学習を深めることができた。また、児童が多くの方々や地域の良さに触れたことは子供たちにとって大きな財産となった。
- 学校応援団活動を通じ、保護者や地域の人々に学校の教育活動を理解していただくだけでなく、学校側も地域の想いに触れることができた。それにより学校・地域・保護者の連携を深めることができた。

東松山市立松山第二小学校の実践

1 児童数・学級数 326名・15学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	3名
担い手	主任児童委員（元PTA会長）・学校安全見守り隊・民生児童委員
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○学校応援団の募集活動

4 充実・発展に向けた工夫

（1）「学校応援団」のキャッチフレーズ

・「できるときに、できる方が、わずかな時間、わずかなエネルギーでも！」を合言葉にする。

（2）さまざまな方法で、家庭・地域への広報活動を行う。

・学校だより・ホームページ・学校応援団だより・学校応援団の口コミ

5 特徴的な活動内容

○エプロン先生



1年生の給食支援（4月）。
準備や片付け、食べ方について支援してもらいました。

○学校応援団「まっつんROOM」



放課後、応援団のみなさんと宿題をしたり、一緒に遊んだりしています。企画の立ち上げから関わってもらいました。

6 成果と地域の方の声

<成果>

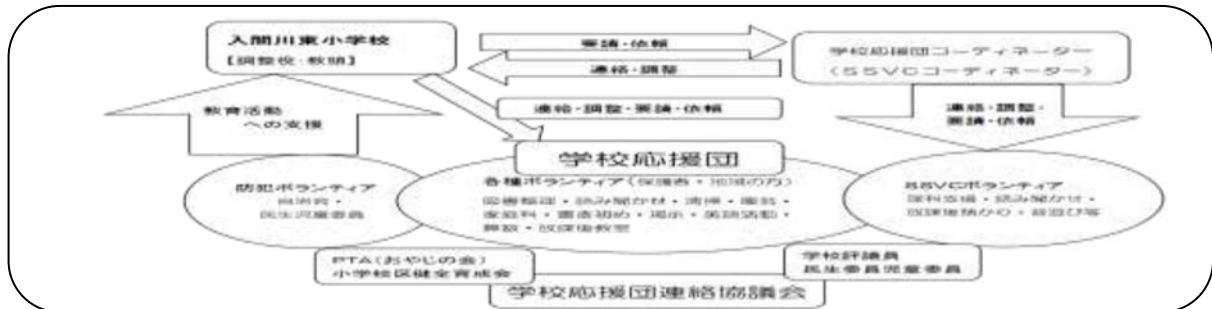
地域の教育力を日々の授業や行事に生かすことで、教育活動の幅が広がった。また、児童は応援団のみなさんと親しく交流することができた。

<地域の方の声>

子供たちと関わることや応援団仲間と一緒に活動することが楽しい。「できるときに、できるだけ」というのが、活動しやすい。

狭山市立入間川東小学校の実践

- 1 児童数・学級数 636名・21学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	2名
担い手	狭山市学校支援ボランティアセンター（以下「SSVC」） コーディネーター（1）地域の有志（1）
行っている業務	○学校との連絡・調整 ○ボランティアとの連絡・調整

4 充実・発展に向けた工夫

（1）多様な活動を継続的な活動にしていく工夫

年度当初と年度末に2回学校応援団連絡協議会を開催している。年度当初は学校経営方針を伝達するとともに、各種ボランティアに分かれてリーダー・副リーダーの人選や年間活動計画を作成している。

（2）学校だよりや学校ホームページ等に活動の様子を紹介

適時、学校だよりやホームページ等に活動の様子を掲載することで、学校応援団の認知度を高めて、新たなボランティア募集につなげている。

（3）他の組織、団体等との連携した活動

読み聞かせボランティアは、毎週水曜日の朝の時間に年間を通して行っているが、「現保護者を主体としたボランティア」と「SSVCボランティア」と「読み聞かせボランティアをしていた卒業生の保護者」の3つの団体から支援を受けて行っている。

5 特徴的な活動内容

（1）図書整理ボランティア…月3回程度の活動

本の整理や修理、ラベル貼り、カバー掛け、図書室の掲示物作成等を行っている。今年度は、図書の電子化に向けて、市から数回派遣された学校図書館司書と連携し、本の廃棄作業や図書室のレイアウト変更を行った。

（2）掲示ボランティア…月1回程度の活動

多目的ホールの前の壁や校長室前の掲示板の掲示物作成や掲示を行っている。行事の時期や季節にあった掲示物を作成している。



【校長室前の掲示板】

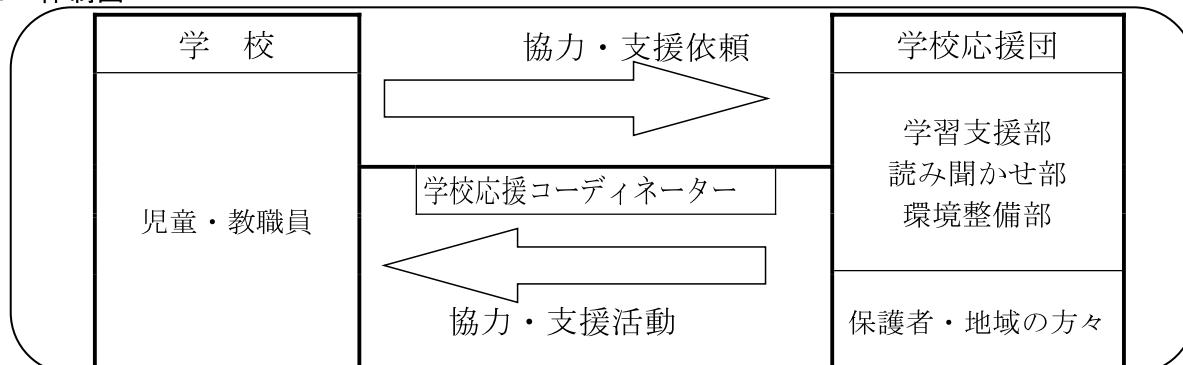
6 成果と地域の方の声

- ・学校応援団の活動を通して、保護者や地域の方に学校の教育活動を理解してもらうことができ、家庭や地域との連携が深まり、計画的で主体的な活動によって、年間を通じてよりよい学校環境を整えることができた。
- ・元気な子供たちの笑顔を見ることを楽しみに、学校が必要とする支援をしていきたい。

富士見市立針ヶ谷小学校の実践

1 児童数・学級数 310名・14学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	前年度PTA会長
行っている業務	○学校（担当者）やボランティアとの連絡・調整

4 充実・発展に向けた工夫

(1) コーディネーターによる調整機能の充実

保護者や地域の方々の協力や支援活動を進めていくには、コーディネーターの役割が大きい。今年度は、習字等の学習支援に必要な人数や時間を調整していただいた。コーディネーターが学校と地域の潤滑油となることで、学校が地域人材の協力を得やすくなるとともに、効果的な個別支援により、学習活動の充実につながった。地域の方々にとっても学習を通した子供たちとの交流を楽しんでいるようであった。

(2) 地域との積極的な連携

地域の人材を生かした教育活動を実現するために、①花壇整備や地域清掃等、誰もが参加できる活動を企画し、広く協力を呼びかけた。②町並みをよく知っている学区内の各町会長に生活科の町探検の引率をしてもらったり、昔遊びをよく知る方に昔遊び体験のゲストティーチャーをお願いしたりと、地域の様々な分野に精通する人材を積極的に活用し、活動範囲の拡大と内容の充実に取り組んだ。また、学校運営支援者協議会やPTA運営委員会において、活動の様子を伝えることで一層理解を深め、積極的な参加を促すことができた。



【町探検での活動の様子】

5 特徴的な活動内容

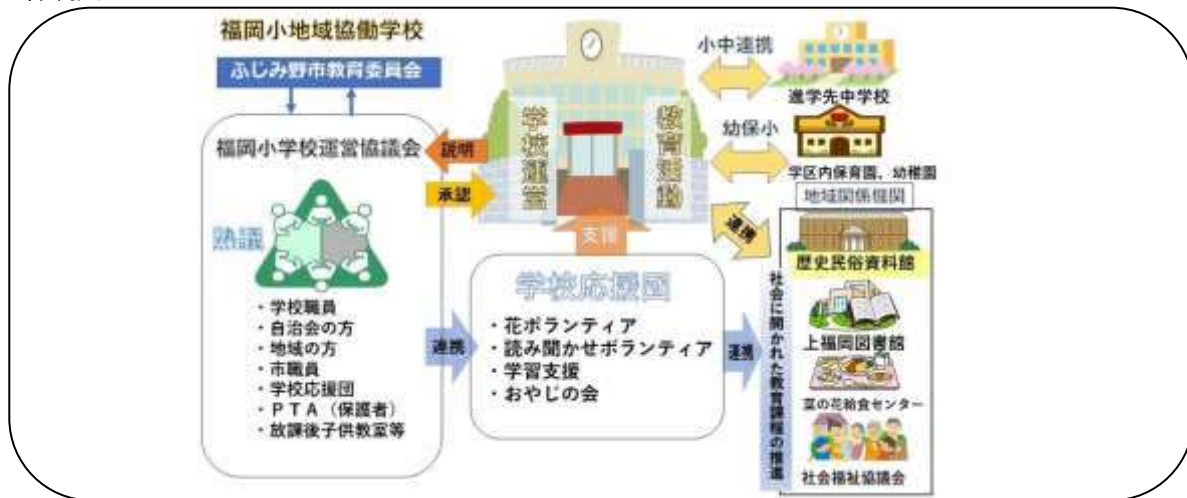
書き初め、ミシンといった学習の指導補助を行ってくださる「学習支援部会」、毎水曜日の朝10分間の「読書タイム」に読み聞かせを行ってくださる「読み聞かせ部会」、そして、花の植え替えや手入れを行ってくださる「環境整備部会」の三つの部会で活動している。また、地域人材を生かした指導・支援にも力を入れて取り組んでおり、3年生の総合的な学習の時間の学習として毎年実施している「よもぎ摘み・団子づくり」は、作り方を知る地域の方をゲストティーチャーとして招いて活動している。近くの土手を散策しながらよもぎを摘み、できた団子を保護者、地域の方とともに食べることで、地域を知るという学習のねらいを達成するとともに、世代を超えた交流の機会にもなっている。

6 成果と地域の方の声

学校応援団のスタッフは、「できることを、できるときに、楽しんで」をモットーに、和気あいあいと活動している。「子供の成長を感じることができる（保護者）」、「一人一人に目が届き、個別に支援をしていただきありがたい（教職員）」といった声も多い。今後は、さらに地域との連携やコーディネーターとの連絡調整を進めていくとともに、「また学校にきたい」と地域の方が思っていたいただけるような学校・家庭・地域がそれぞれ満足感を得られ、継続的な活動になっていくよう連携していく。

ふじみ野市立福岡小学校の実践

- 1 児童数・学級数 630名・21学級
- 2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	5名
担い手	元PTA関係者（1）PTA関係者（3）社会教育課（1）
行っている業務	○学校担当者との連絡・調整 ○個々のボランティアとの連絡・調整 ○各地域機関との連携、ボランティア募集

4 充実・発展に向けた工夫

【組織体制の見直し】

今年度から学校運営協議会制度を導入することにより、学校応援団や地域関係機関との連携した教育活動を推進している。学校運営協議会では、学校応援コーディネーターに学校運営協議会委員となってもらい、地域協働学校の教育活動についても熟議できるようにした。今後も地域機関、学校応援団、自治会長も含めた学校運営協議会を推進していくことで、地域との連携を行っていく。

5 特徴的な活動内容

(1) 学習支援

本校では、保護者・地域の方による学習支援と各地域機関のスタッフ、地域ボランティアによる学習支援が行われている。

(2) 地域機関との連携

学校運営協議会に各機関の代表に出席していただき、本校の教育内容を地域の委員の方や学校応援団コーディネーターが目標を共有してもらい、教育指導計画に基づいた開かれた教育課程の実践を行った。主な活動例は、以下のとおりである。

1年 昔遊び 2年 学区探検（各地域機関） 3年 食育（なの花給食センター）
4年 福祉（社会福祉協議会） 5年 国語（上福岡図書館） 6年 社会（民族資料館）



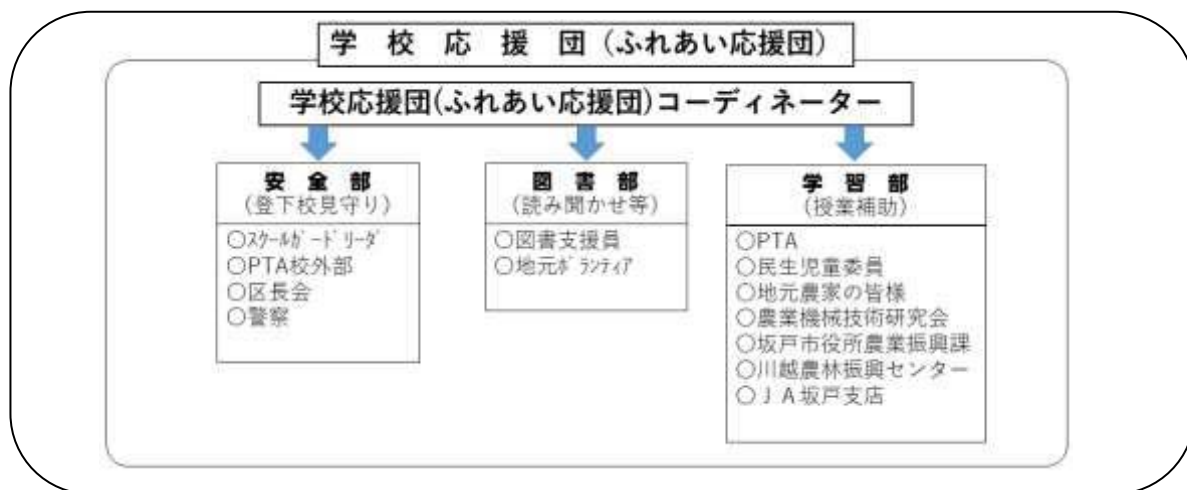
【人権の花植の様子】

6 成果と地域の方の声

学校応援団に加えて各地域機関と連携した学習支援活動を行った結果、教育活動が充実し、次年度に向けて開かれた教育課程の実践を行うことができた。また、学校応援団コーディネーターが学校運営協議会の委員に加わることによって、学校に協力しやすくなり、地域の方と繋がることできるようになった。

坂戸市立片柳小学校の実践

- 1 児童数・学級数 234名・11学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	学校評議員（元学校応援団員）
行っている業務	○学校（担当者）やボランティアとの連携・調整 ○新たなボランティアの募集活動 ○各事業への参加

4 充実・発展に向けた工夫

- (1)【組織体制の見直し】昨年度より複雑だった組織を見直し、スリム化に取り掛かっている。PTAの多くは仕事を持っており、定例の会議等に参加もできにくいため、連絡系統を一本化にして事業以外で集まる機会を減らしてきた。
- (2)【応援団員確保の工夫】団員の高齢化及び共働き家庭の増加による団員確保は以前より課題となっており、年度当初団員募集の案内を保護者に配布してもなかなか集まらない現状が数年続いていた。歴代の応援団員から主任児童委員さんへ連絡して頂き、たくさんの民生児童委員さんからの協力が得られた。

5 特徴的な活動内容

読み聞かせボランティアさん達で結成されている「おはなしレインボー」。毎学期末に、低学年児童を対象にした紙芝居・人形劇教室を行い、子供たちの楽しみの場となっている。年3回の公演には、校長先生も参加しており、本校の恒例行事となっている。



【おはなしレインボー】

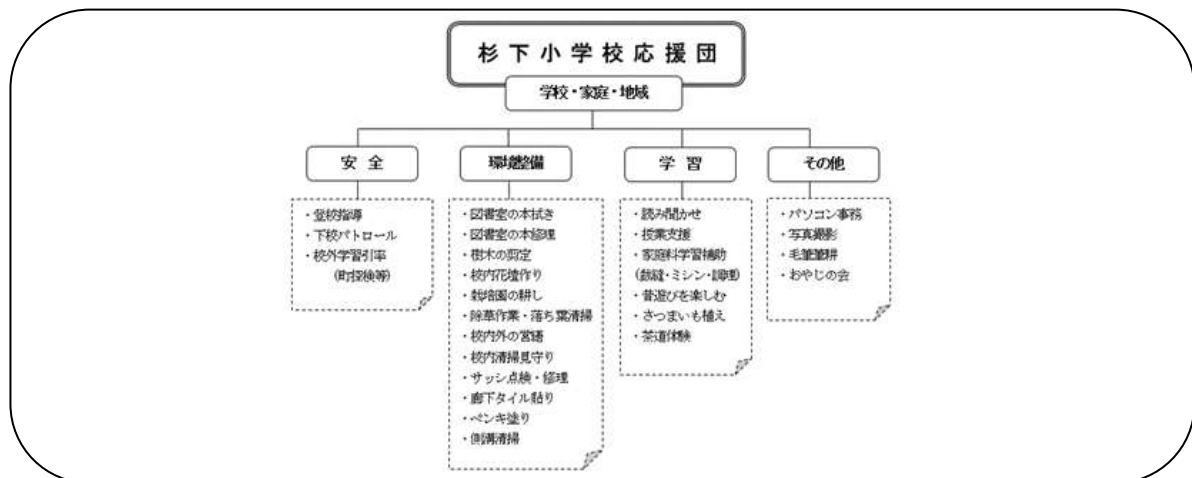
6 成果と地域の方の声

「開かれた学校」をつくるにあたり、地域との連携は不可欠である。地域の方々に学校に来ていただく機会を設け、実際に子供たちと交流することでより地域に根付いた学校となっていく。そのためにも、学校応援団の役割は重要である。今年度は特にお米づくり事業に多くの応援団の方々に協力頂いた。そして、その方々に、子供たちの声を届けた。

協力してきたことの成果を子供たちの声として届けることで、応援団の方々はより実感が沸き、来年度へのモチベーションにつながったようであった。

鶴ヶ島市立杉下小学校の実践

- 1 児童数・学級数 507名・19学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	2名
担い手	学校運営協議会委員・PTA副会長
行っている業務	○「安全」「環境整備」「学習」分野での活動実施と連絡・調整 ○様々な活動を通して学校・保護者・地域相互の交流 ○応援団員の募集と応援団支援体制の充実

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) PTA活動・参観日・公開日に学校へ来た時に参加しやすいボランティア（本の整備や除草）を計画し協力者が参加しやすいように工夫した。
- (2) 学校協議会の中で学校・PTA・女子栄養大学・地域・市民センター・民生児童委員・応援団での話し合いをもち、色々な情報をいただき、連携を図ることができた。
- (3) 学校の職員が地域のお祭りに参加し地域住民と交流を図り、学校の教育活動への参加を呼びかけた。
- (4) 運動会・持久走において、会場づくりを地域住民が協力して行ってくださった。
- (5) 地域住民・保護者が協力して学校の環境整備を一緒に行うことができた。

5 特徴的な活動内容

本校では、「できる時に！できることを！一緒にやりましょう。」と広く家庭・地域に呼びかけ、多様な学校支援活動・登下校の安全の見守り・環境整備活動にご協力いただき、学校・家庭・地域が連携して児童の育成を推進している。



【環境整備】

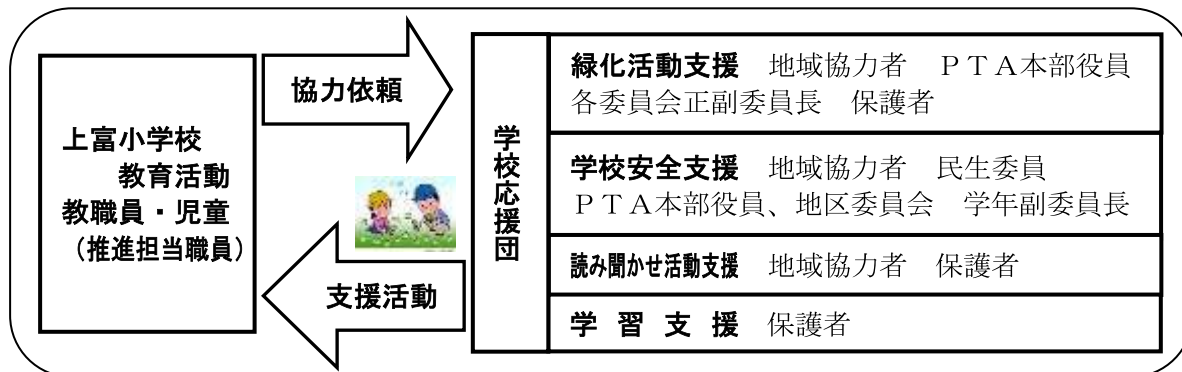
6 成果と地域の方の声

- ① PTAや地域住民の協力が昨年度と同様に高まっている。また、学習支援ボランティアに参加してくださる方が増えてきた。
- ② 地域の夏祭りなどに学校職員が参加することで地域住民と交流が深まった。「学校と地域がつながっていることは大切である。」との声もあがるようになり、連携が深まっている。
- ③ 充実した茶道体験（会場の提供・たくさんの指導者・用具の準備など）を通して作法や地域の大人との関わり方を学ぶことができた。

三芳町立上富小学校の実践

1 児童数・学級数 108名 6学級

2 体制図



3 学校応援団コーディネーターについて

本校の学校応援団コーディネーターは、PTA活動の中に位置付けられている。

コーディネーター数	1名
担い手	PTA会長
行っている業務	○学校からの担当者との連絡・調整 ○学校運営協議会には、PTA副会長が参加し橋渡しを行う。 ○コーディネーターから各応援団活動の担当者に連絡。

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) 「スクールガード」の情報交換会（年度当初）
- (2) 読み聞かせボランティアの組織化

5 特徴的な活動内容

【緑化活動】

- ◎PTA本部役員・保護者・地域の方々を中心とした緑化活動
- ◎緑化活動推進委員会による農園や花壇の土の掘り起こしの援助
- 緑化活動推進委員会の方々や地域協力者に環境や苗の準備をしていただきPTAと学校が協働で植物を植えている。学校の行事計画に、年間に2回（春、秋）植物の植栽、年間に5回全校除草を位置付け、活動日に保護者・地域の方々にご来校いただき、児童と共に校地内の緑化活動を行っていただいている。また、協働で作業を行うことで児童の豊かな心の育成の一助となっている。



きれいに整地された農園



親子除草作業

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

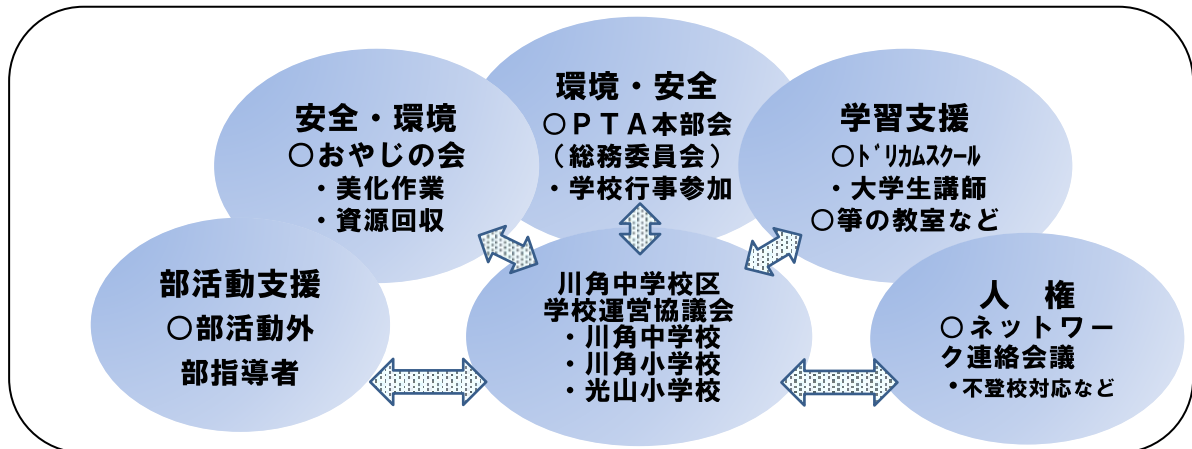
- 保護者・地域の方々が、教育活動に参加することにより授業や活動を直接見てもらい、地域で子供を育てているという意識を地域にも広げることができた。

(2) 地域の方の声

- 緑化活動で、児童と一緒に活動して学校の環境が整えられていく手助けができてうれしい。

毛呂山町立川角中学校の実践

- 1 生徒数・学級数 331名・12学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	PTA会長
行っている業務	・学校が積極的に家庭や地域社会にかかわり、安心・安全な学校づくり、生徒の健全育成、学習指導や部活動の充実、環境整備等を行っている。 ・学校の活性化、家庭や地域社会の教育力の向上を図る。

4 充実・発展に向けた工夫

- ・学校応援コーディネーター【川角中学校PTA会長】について

ボランティアである「学校応援団」が円滑な支援を行うには、学校と学校応援団の調整「コーディネート」がとても重要であり、学校からの依頼を受けて、学校と学校応援団（支援ボランティア）の調整を行ってもらった。

5 特徴的な活動内容

(1) 環境整備の支援 <具体的な活動>

- ・PTAによる美化作業＝年3回実施（5月、10月、3月）
- ・おやじの会の環境整備＝植木の伐採、グラウンドの整備（重機の使用）、チェーンソーによる樹木の伐採、枝おろし、草刈り機による大規模な雑草対策を行った。
- ・PTAによる資源回収＝年2回実施（7月、12月）



【PTA 資源回収】

(2) 学習・部活動の支援 <具体的な活動>

- ・箏の教室＝音楽の箏の学習单元（1年生）において2日間指導
- ・命の教育＝3年生の保健指導（妊婦体験等）において1日指導
- ・寺社仏閣について知る＝2年生の総合的な学習において、歴史民俗資料館職員派遣



【箏の教室】

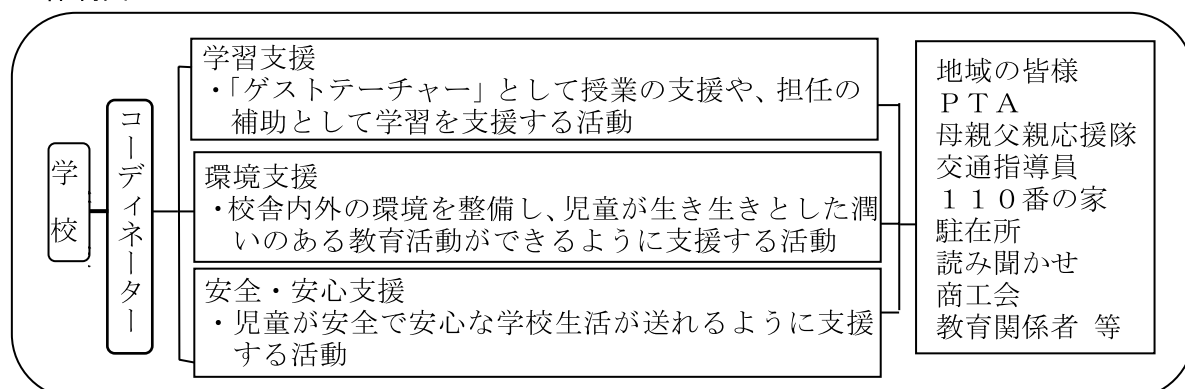
6 成果と地域の方の声

- ・学校応援団が組織的・計画的・継続的に支援活動を展開するようにコーディネーターを中心とした流れが確立してきた。
- ・総合的な学習において、地域の人材を活用し学習を深めることができた。地域の方々が学校に入ることで、さらに地域との繋がりが深まった。

川島町立つばさ南小学校の実践

1 児童数・学級数 131名・8学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	元公民館長
行っている業務	○学校（担当者）との連絡・調整 ○地域情報の学校への提供 ○個々のボランティアとの連絡・調整

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) 地域に回覧する学校だより、全世帯に配布するPTA広報誌（年3回）等を使って、学校の教育活動を積極的に発信している。また、年3回の学校評議員会では、学校応援団による活動状況を報告し、次年度の改善に生かしている。
- (2) 地域との関わりの大変深い学校2校が統合し、新たに開校した2年目の新設校である。児童を中心にとらえ、めあてとねらいを明確にした活動が展開できるように事前の打ち合わせを大切にしている。

5 特徴的な活動内容

くみなみっ子フェスティバルでの「接待餅」>

かつて校区内の出丸地区には川越藩の陣屋があった。そこへやってくる役人を接待するために献上した「大屋敷接待餅つき踊り」が今も伝わっており、保存会の方々に11月のフェスティバルに来校していただき、自分たちで粃から育て収穫した餅米で子供たちが餅をつき、来校者にもふるまい喜んでいただいている。

また、当日は、応援団としてお世話になっている代表の方に、児童より感謝状を贈呈している。



【大屋敷接待餅つき踊り】

6 成果と地域の方の声

(1) 成果

- ・学校応援団活動を通じ、新しい「つばさ南小」の名を地域に広めるとともに、保護者や地域の方々に学校の教育活動を理解していただいている。家庭や地域との連携が深まり、さらなる学校への協力・支援をお願いしやすくなっている。
- ・多様な学びを子供たちへ提供するとともに、子供たち自身が、多くの地域の方々に守られていることを実感させ、郷土愛の醸成へ結びついている。

(2) 地域の方の声

- ・子供たちの笑顔・笑い声で元気をもらっている。学校が近いものとなり、敷居が低くなったような気がする。これからも協力していきたい。